

# 『災害に強いまち』 どうするまちの将来像



## ハード整備は

【野口昌】 公助の役割が大事である。

【西尾】 災害の大規模化により、ハードの公助が必要であり、集落の高齢化など、正しい現状把握も大事。

【池田】 ハード事業は地域と相談して行うことが必要。

【森本】 ハードには、人の命を守る強さが必要。適切な維持管理も重要。



目頃から災害に備えたい

【吉原】 日ごろの点検、対策が大事で、国・県に継続して要望していくことも大事である。

【門脇】 正しい情報を確実に伝えること。過去に災害のあったところから想定し、ハザードマップへ反映すること。

【大森】 公共施設の耐震化、危険ブロック塀の撤去など、助成も必要だ。

【野口俊】 多くは公共がすべきである。国・県と一緒にすすめるべきである。

【岡田】 ハザードマップから、地域と一緒に点検することが大事。

## こんな意見も

【大原】 地域と集落をつなぐ防災士が大切だ。行政へは、早めの積極的な指令を求める。

【大森】 川の樹木や川床の整理を早急に対応すべきだ。

【野口俊】 日中、ほとんど人がいない所が多い。公助の役割が重要だ。

【吉原】 公の問題として、老朽化した空き家は、台風時にはかわらや屋根が飛びかねない。災害に対しての空き家という観点も必要だ。

【加藤】 自主防災組織への期待が強いが、意識啓発から活動の活発化へ移行させるのが大事だ。

【野口昌】 行政において、各集落に防災担当委員をおいてもらいたい。

【近藤】 人口は減少していく中で、共助をどう守っていくのか。人材育成としての防災士の育成が必要である。

## 討論会を終えて

災害に強いまちづくりは、一般質問でもよく取りあげられ、関心も高い問題である。議会と行政だけでは、命は守ることができないが、まちづくりの充実が、災害に強い町につながるということは確かである。

まちづくりは人づくりであり、お互いに連携を取り災害に強い町を作りあげたいものである。